

第3回簡易懸濁法研究会 総会

資 料

日時:平成21年10月23日(金) 17:45～18:15

場所:長崎市市民生活プラザホール(5F・ホール控え室1)

第3回簡易懸濁法研究会総会 式次第

【総会式次第】

長崎市市民生活プラザホール
(5階 ホール控え室1)

17:45～18:15

- | | |
|-------------|----------|
| 1. 開会の辞(司会) | 座間味幹事 |
| 2. 代 表 挨 拶 | 倉田代表幹事 |
| 3. 議 事 | |
| ア. 議 長 | 倉田代表幹事 |
| イ. 報 告 事 項 | |
| 事業報告 | 新井幹事 |
| 会計報告 | 安藤会計担当幹事 |
| 会計監査報告 | 世良会計監事 |
| 会則変更議案 | 倉田代表幹事 |
| 役員改選について | 世良幹事 |
| ウ. 議 案 | |
| 平成21年度事業計画案 | 倉田代表幹事 |
| 平成21年度事業予算案 | 安藤会計担当幹事 |
| 4. 閉会の辞 | 岡野副代表幹事 |

簡易懸濁法研究会 平成 20 年度事業報告

平成20年3月	会員名簿 配布
平成20年4月	刊行物「簡易懸濁法Q & A集(基礎編)」第2版発行
平成20年5月	講演会「錠剤つぶしの危険性と簡易懸濁法」演者:倉田なおみ先生 茨城県つくば市、茨城県病院薬剤師会・茨城県薬剤師会と共催
平成20年6月	徳島文理大学薬学部 医療薬学講座 岡野研:服薬支援セミナー 「患者さんに優しい薬剤師業務をめざして」演者:倉田なおみ先生
平成20年7月	ホームページ開設 (平成20年7月10日)
平成20年9月	全国厚生連学術総会にて講演(札幌)演者:賀勢泰子先生、倉田なおみ先生
平成20年9月	第2回簡易懸濁法研究会総会・記念講演開催 於:札幌市教育文化会館 製品紹介「マグミット錠について」 株式会社協和化学工業 会員発表「簡易懸濁法導入による業務の効率化と薬剤動向」 南札幌病院診療技術部長 薬剤科長 田中 協 先生 特別講演「PEG の実際と経管栄養の安全管理」 クローバホスピタル 消化器科 医学博士 望月弘彦 先生
平成20年9月	第18回日本医療薬学会シンポジウム 『チームでめざす「患者中心の医療」－各職種が考える服薬・栄養支援－』 座長:岡野 善郎[徳島文理大学薬学部医療薬学講座] 座長:倉田なおみ[昭和大学薬学部薬学教育推進センター] 「患者の利便性を考慮した製品開発」 落合 康(大日本住友製薬・技術研究本部・製剤研究所) 「服薬支援のための内服薬懸濁に関する情報検索と実験的評価」 石田 志朗(徳島文理大学薬学部医療薬学講座) 岡野 善郎(徳島文理大学薬学部医療薬学講座) 新井 克明(大洗海岸病院薬剤部) 賀勢 泰子(鳴門山上病院薬剤科) 安藤 哲信(吉備高原ルミエール病院薬剤科) 倉田なおみ(昭和大学薬学部薬学教育推進センター) 「患者の ADL・QOL を守る視点に立った服薬支援」 川添 哲嗣(くろしお薬局、日本薬剤師会) 「外用剤の服薬指導を忘れていませんか？」 大谷 道輝(東京通信病院薬剤部) 「NST(nutrition support team)による服薬・栄養支援:経管栄養の 安全管理と簡易懸濁法の導入」 望月 弘彦(クローバーホスピタル消化器科) 「今までの服薬指導、これからの服薬支援」 倉田なおみ(昭和大学薬学部薬学教育推進センター)
平成20年9月	第18回日本医療薬学会年会において全国厚生連病院との共同研究 「全国厚生連病院「簡易懸濁法に関するアンケート調査」集計結果と解析」 ポスター発表
平成21年3月	論文掲載 「日赤薬剤師会「簡易懸濁法に関するアンケート調査」集計結果 － H18.1とH19.6との比較 －」 静脈経腸栄養 Vol.24 No.2 March 2009
平成21年3月	第3回 幹事会(京都)

簡易懸濁法研究会 平成21年度事業経過報告

- 平成21年4月 簡易懸濁補助器具「けんだくん」発売、エムアイケミカル株式会
 平成21年4月 簡易懸濁法研究会学術講演会(共催):ロワジールホテル(新潟)
 「簡易懸濁法導入による薬局業務の変動」
 知命堂病院 薬剤科長 武藤 浩司 先生
 「薬剤師のソコチカラー 危険な粉碎調剤をやめて簡易懸濁法へー」
 昭和大学薬学部薬剤学教室 准教授 倉田 なおみ 先生
 実習講義 担当 三条東病院 薬剤科長 岡村 正夫 先生
 うおめま調剤グループ DI 室長 古澤 洋子 先生
 知命堂病院 薬剤科 瀧澤 渉美 先生
- 平成21年6月 簡易懸濁法研究会学術講演会(共催):ホテルレイクアルスター泉大津(大阪)
 「薬剤師のソコチカラー 危険な粉碎調剤から簡易懸濁法へー」
 昭和大学薬学部薬剤学教室 准教授 倉田 なおみ 先生
- 平成21年7月 雑誌「薬局」特集:「簡易懸濁法」発行
 平成21年8月 HP会員スペースに「簡易懸濁法説明用資料(1錠剤粉碎の問題点、2簡易懸濁法について)」のPDFファイルを掲載
 平成21年9月 第4回倉敷脳卒中チームケア研究会(後援):
 倉敷中央病院大原記念ホール(岡山)
 「脳卒中患者における服薬支援ー簡易懸濁法を含めてー」
 昭和大学薬学部薬剤学教室 准教授 倉田 なおみ 先生
- 平成21年10月 (社)栃木県薬剤師会・栃木県病院薬剤師会県北地区学術講演会(後援):
 那須野が原ハーモニーホール交流ホール(栃木)
 「錠剤粉碎の問題点と簡易懸濁法」
 昭和大学薬学部薬剤学教室 准教授 倉田 なおみ 先生
- 平成21年10月 HP会員スペースに「抗HIV薬の簡易懸濁法可否一表」を公開
 平成21年10月 第3回簡易懸濁法総会・講演会:長崎市民生活プラザホール(長崎)
 会員企業報告 「当社における簡易懸濁法情報提供とその問題点」
 大鵬薬品工業株式会社 ホームページ室 八束 弓 様
 会員報告
 報告1「処方薬の安全で適正な使用をめざした運用」
 大洗海岸病院 薬剤部長 新井 克明 先生
 報告2「簡易懸濁法アンケート、5団体の集計結果」
 益田赤十字病院 薬剤部長 西園 憲郎 先生
 会員発表 「老健施設での簡易懸濁法導入事例と薬剤師の関わり」
 泰栄メディカル 西村 泰徳先生
 特別講演 「PEGがつなぐ地域連携～それを支える簡易懸濁法」
 南薩ケアほすびたる消化器内科 伊東 徹 先生
- 平成21年10月 刊行物「簡易懸濁法Q & A集(応用編)」発刊
 平成21年10月 第19回日本医療薬学会年会 シンポジウム 9
 「薬局・病院で今後必須になる患者中心の薬学的ケア」
 オーガナイザー: 徳島文理大学薬学部 岡野 善郎 先生
 長崎県薬剤師会 宮崎 長一郎 先生
 基調講演:「薬局・病院で今後必須になる患者中心の薬学的ケア」
 社団法人日本薬剤師会 木村 隆次 先生
 「薬局・病院の薬学的ケアの統合」
 北海道薬科大学 早川 達 先生

	「患者中心の薬学的ケアをめざした薬局業務」 エムズ薬局・東京理科大学薬学部 鹿村 恵明先生
	「療養病床における患者中心の薬学的ケア」 ー高齢者には総合的な評価と服薬支援をー」 鳴門山上病院薬剤科 賀勢 泰子 先生
	「患者中心の薬学的ケアを目指した職能拡大」 昭和大学薬学部薬剤学教室 倉田 なおみ 先生
	「患者中心の薬学的ケアに必要な医薬品情報」 慶應義塾大学薬学部 望月 眞弓 先生
平成21年10月	第31回香川臨床薬剤業務研究会(後援):ロイヤルパークホテル高松(香川) 「薬剤師のソコヂカラー簡易懸濁法に学んだ患者支援」 昭和大学薬学部薬剤学教室 准教授 倉田 なおみ 先生
平成21年11月	浅草薬剤師会研修会(後援):伊藤薬局2階(東京) 「いままでの服薬指導、これからの服薬支援」 ー危険な錠剤粉砕をやめて、簡易懸濁法へー」 昭和大学薬学部薬剤学教室 准教授 倉田 なおみ 先生
その他	○講演活動 ○会員学会発表 ○メーリングリストでの未掲載薬品データの公開

平成20年度調査研究事業

簡易懸濁法の普及状況等把握のためのアンケート調査
-全国厚生連病院における実態調査-

第18回日本医療薬学会年会におけるポスター発表内容(要旨)

平成21年4月15日

アンケート調査班
安藤哲信、西園憲郎、賀勢泰子

全国厚生連病院「簡易懸濁法に関するアンケート調査」集計結果と解析
大倉輝明¹⁾、小菅敏雄¹⁾、守屋猛¹⁾、西園憲郎²⁾、賀勢泰子²⁾、安藤哲信²⁾、
倉田なおみ²⁾

全国厚生連病院薬剤長会議¹⁾、簡易懸濁法研究会²⁾

【目的】経管投薬法の一つである「簡易懸濁法」は、安全管理あるいは適正使用上の多くのメリットがあることから全国的に普及しつつあり、済生会病院、徳州会病院、赤十字病院等における取り組み状況が報告されている。今回、病院の規模や療養病床の有無などが様々な全国の厚生連病院においてその導入の実態を調査し、導入に及ぼす要因について解析した。

【方法】平成 19 年 12 月に全国の厚生連病院 120 病院に対し、メール添付あるいは郵送等によりアンケート調査を実施した。(回答 118 施設)

【結果および考察】簡易懸濁法実施病院は 41 施設(35%)であり、地域ブロック別では西日本での実施率が高い傾向が見られた。薬剤部へのメリットの設問では安定性の向上、薬剤ロスの減少、調剤業務の簡素化、視認性向上による安全性、薬剤暴露に対する安全性(32 施設)が多く施設で挙げられた。一方、デメリットに関しては配合変化等の情報不足、崩壊・懸濁性に関する情報不足、多施設に移行時の問題、看護師業務量の増加等が挙げられたが、メリットと比較して少ない傾向が見られた。これに対して、現場の看護師の評価も視認性向上、薬剤ロスの減少が薬剤部と同様に多かったが、業務量については「変わらない」が 22 施設(37 施設回答)と最も多かった。一方、未実施施設 77 施設中今後導入したい病院が 62 施設(81%)で、研修等に参加を希望する施設は 55 施設であった。

さらに、調査結果から導入に及ぼす要因を検討するため、実施施設と未実施施設における総病床数、療養病床数、経管栄養投与患者の割合、100 床当たりの常勤薬剤師数等を比較検討したところ、100 床当たりの常勤薬剤師数において実施施設平均 4.312 人、未実施施設平均 3.639 人と両施設間で相違が見られ、薬剤師側の要因が導入に影響を及ぼしていることが示唆された。

謝辞

簡易懸濁法研究会は、服薬困難な患者への安全で効果的な与薬を目的としてさまざまな活動を展開しています。平成20年度調査研究事業としては、厚生連病院グループの全面的な協力を得て、簡易懸濁法の普及状況や利点、欠点等に関する全国規模の調査を行なうことができました。

118施設における調査結果は、日本医療薬学会にて報告し、広く全国の薬剤師に広報することができました。今回の調査の結果は、今後の調査研究活動および簡易懸濁法による服薬困難な患者の服薬支援に活用して行くことといたします。

平成20年度調査研究事業にご理解いただき、協力支援および多大なご尽力をいただきました厚生連病院の関係者のみなさまには、ここに研究会代表倉田なおみはじめアンケート調査研究班ほか幹事一同より心より感謝申し上げます。

平成20年度調査研究事業

日赤薬剤師会「簡易懸濁法に関するアンケート調査」集計結果

－ H18.1 と H19.6 との比較 －

静脈経腸栄養 Vol.24 No. 2 March 2009 への投稿内容(要旨・本文)

平成21年4月30日

アンケート調査班
西園憲郎、賀勢泰子、安藤哲信

平成 20 年度投稿誌

〈雑誌名〉静脈経腸栄養

〈発行年〉March 2009

〈巻〉Vol. 24 No. 2

〈ページ〉61～64

☆ 和文の題名

『日赤薬剤師会 「簡易懸濁法に関するアンケート調査」
集計結果 H18.1 と H19.6 との比較 』

☆ 共同著者名、所属

○西園憲郎¹⁾ ²⁾ ³⁾、我妻仁²⁾、佐々木吉幸²⁾、稲瀬實²⁾、
賀勢泰子³⁾、安藤哲信³⁾、倉田なおみ³⁾

¹⁾ 益田赤十字病院薬剤部、

²⁾ 日赤薬剤師会薬剤業務委員会、

³⁾ 簡易懸濁法研究会

☆ 英文の題名

The Results of Questionnaire about Simple Suspension Method in Japanese Red Cross
Hospitals

Comparison between the January of 2006 year and the June of 2007 year

要旨

内服薬を経管に投与する場合、錠剤粉砕・カプセル開封をして粉末状に調剤し、その薬を水に懸濁させてチューブから注入する。これが、どこの病院、施設、在宅の場で、何十年間も当然の流れとして慣例的に実施され、それが疑問視されることもなく今日まできた。

しかし、薬を経管に投与を行う現場ではチューブ閉塞や薬の投与量のロスなどたくさんの問題が発生している。そのような事例を薬学的な観点から考えた“簡易懸濁法”が発案された。

「内服薬経管投与ハンドブック」（じほう）初版の冒頭に「今後の医療に変革をもたらす可能性のある技術を紹介する本である」と書かれている。簡易懸濁法はこの書籍の出版を契機として急速に全国に広まり、定着しつつある。

そのような中、日赤薬剤師会では簡易懸濁法に関するアンケートを平成 18 年と 19 年の 2 回実施し、その普及率の増加が判明するデータを得ることが出来た。簡易懸濁法実施病院は、平成 18 年 1 月から 19 年 6 月の 1 年半で 15% も増加しており、「簡易懸濁法」は、粉砕によるロスがなくなるなどメリットが多いと回答していた。今回のアンケート結果から、未実施病院でも簡易懸濁法に興味を示し、さらに普及してくると考えられる。本稿では、アンケート集計結果について概説した。

キーワード：

簡易懸濁法、経管栄養、在宅医療

本文

【はじめに】錠剤粉砕やカプセル開封を行わずに経管投薬ができる「簡易懸濁法」が考案されて以降、多くの施設で検討され導入されてきた。そもそも、簡易懸濁法とは、昭和大学薬学部教育推進センター倉田なおみ准教授が昭和大学藤が丘リハビリテーション病院薬局長時代に従来の粉砕法に代わる経管投薬方法として提唱した方法で、「錠剤をつぶしたりカプセルを開封したりしないで、そのまま温湯に崩壊・懸濁させて経管投与する方法である¹⁾。薬を経管投与する場合、錠剤粉砕・カプセル開封をして粉末状に調剤し、その薬を水に懸濁させてチューブから注入する。これが、どこの病院でも、施設でも、在宅の場でも当然の流れとして何十年間も慣例的に実施され、それが疑問視されることもあまりなかった。これだけエビデンスの重要性が問われる時代になっても、薬を水に入れたらどうなるかというエビデンスがまったくないまま、経管投薬していたのである²⁾。しかも、経管投与の現場ではチューブ閉塞の事例が多々発生しており、そのような問題を改善すべくして“簡易懸濁法”が誕生したのである。

日赤薬剤師会薬剤業務委員会では平成 18 年 1 月に「簡易懸濁法に関するアンケート調査」を実施し、その普及率について調査した。しかし、簡易懸濁法はその後、全国的に急速に普及している。さらに、今回の報告とは関係ないが、平成 19 年 1 月に「簡易懸濁法研究会」が発足し病院、薬局、企業、大学、行政などが連携を図る仕組みが構築された。

「簡易懸濁法研究会」では、現在、多くの団体（済生会病院、徳州会病院、厚生連病院等）に、「簡易懸濁法に関するアンケート調査」を依頼している。そこで、赤十字病院でも 19 年 6 月に再度「簡易懸濁法に関するアンケート調査」を実施し、その普及率の推移や医療現場での実態を把握することにした。

【方法】 1. 日赤薬剤師会ホームページにアンケート調査依頼を掲載

2. 対象：全国赤十字病院（分院を含む）94 病院

3. 調査月：平成 18 年 1 月と平成 19 年 6 月の 2 回

4. アンケート調査項目（2 回共に同じアンケート内容）（表 1）

【結果】表 2 にアンケート回答病院数、および上記アンケート調査項目の設問 1～4 を記載した。簡易懸濁法を実施している病院は H18. 1 の 21 病院（実施率 22. 3%）から H19. 6 の 35 病院（同 37. 2%）に増加しているが、さらにこの調査の 4 ヶ月後（H19. 10）全国赤十字病院で薬剤業務全体の調査を実施した簡易懸濁法実施有無の設問では実施病院が 47 病院（同 50%）まで増加している。次に、「簡易懸濁法」実施病院にそのメリットを尋ねた回答を表 3 に示した。最も多かったのが「薬剤を直接懸濁崩壊させるため、ロスがなくなり薬効を高めることができる」と「粉砕しないため、光、湿度等の影響を受けず安定性を保持できる」で、次いで「医療従事者、家族が薬剤投与前に内容の確認ができ、リスクネージメントにもつなが

る」、「医療従事者・家族等が薬剤に曝露されにくいため、吸入、付着等の生体への影響を回避できる」となっていた。また、薬剤師の立場で言うと、「調剤時間の短縮ができ、薬剤業務が簡素化される」「ヒートのまま払い出した薬剤は返納に対応できる」さらには、吸湿性薬剤など「つぶし調剤よりも、経管投与できる品目が増えた」とのデータが得られた。「簡易懸濁法」を導入するにあたり、病棟の理解を得るために行なったことは、「病棟師長に必要性を説明し1病棟ずつ広めていった」が最も多く、次いで「院内の勉強会、病棟勉強会で、有用性を紹介した」「NSTなどの病院組織の中で検討し、導入を決定した」となっていた。55℃の温湯のつくり方の設問では、「病棟ナースステーションの蛇口の水を熱くして調整している」病院が全体の52%と最も多く、次いで「60℃の設定ができる湯沸しポット(調乳用)で調整している」病院が22%、「湯沸しポットの湯と水道水(2:1)で調整している」病院が18%となっていた。また、平成19年1月に発足した「簡易懸濁法研究会」について知っているかとの設問では、発足後半年の時点ではその存在を3分の1の病院しか知らないと回答していた(図1)。「簡易懸濁法」を実施していない病院へ、実施しない理由を尋ねた結果を表4に示しているが、「看護師の協力が得られない」がネックになっていることが判明した。しかしながら、「簡易懸濁法」に興味があるのか「簡易懸濁法の研修や、実技セミナーがあれば、参加するか？」の設問では殆どの病院が参加したいと回答していた(図2)。

【考察】処方せんに書かれた処方量と患者さんに投与される投与量は当然等しくなくてはならないが、錠剤を粉砕すると調剤時、投与時に医薬品のロスが生じ、投与量が減ってしまうことは歴然としている。

「簡易懸濁法」は、処方量＝投与量を可能とする経管投薬法なのである³⁾。今、簡易懸濁法は全国多数の病院に導入されるようになり、その成果が「簡易懸濁法とは…」という説明もなく、薬学系のみならず職種を越えた全国のいろいろな学会で発表されている⁴⁾。今回の調査で、簡易懸濁法にはメリットが多いと判明した。これらのことを鑑み、その普及率は今後もさらに増加し、簡易懸濁法は病院薬剤師にとって欠かせない業務の一つになってくるものと思われる。また、保険調剤薬局でも簡易懸濁法が普及しており、今後は医療現場のみならず在宅医療の場にも広く導入されてくるものと推測する。それにしても、経管投与の現場でチューブ閉塞の事例から簡易懸濁法を試行し、確立した倉田氏の功績は大きい。過去にこの方法すら考えつかなかったわれわれは、つぶし調剤から発想の転換ができなかったことを大いに反省すべきであろう⁵⁾。倉田氏は、簡易懸濁法の生まれた過程を電話の発明をしたアレクサンダー・グラハム・ベルの銅像の下に書いてある言葉「時には踏みならされた道を離れ、森のなかに入ってみなさい。そこではきっとあなたがこれまで見たこともない。何か新しいものを見出すに違いありません。」と同じだと述べている。

経鼻経管栄養は現代医療で不可欠の医療技術であり日常診療で多用され、当然ながら薬剤もチューブから投与されている。簡易懸濁法は錠剤粉砕による問題点を一気に解決できる画期的な方法であり、医療現場で大きな変革をもたらしている。今回の結果でも分かるように今後、わが国においてチューブからの薬剤投与は簡易懸濁法以外にあり得ないとなる日も遠

くないであろう。さらに欧米の医療者もこの方法に大変興味を示し賞賛の言葉を述べている。将来は広く世界に認められる方法でもあると確信している。

【参考文献】

- 1) 藤島一郎、倉田なおみ編. 内服薬経管投与ハンドブック. 初版. じほう. 東京. 2001.
監修の言葉
- 2) 藤島一郎、倉田なおみ編. 内服薬経管投与ハンドブック. 第2版. じほう. 東京. 2006.
監修の言葉
- 3) 倉田なおみ. 経管投与の新しい手技. 簡易懸濁法研究会編. 簡易懸濁法Q & A. 初版.
じほう. 東京. 2007. p 2.
- 4) 西園憲郎他. 簡易懸濁法アンケート集計結果. 薬事新報 2420 : 20-34、2006.
- 5) 西園憲郎、稲瀬實. 簡易懸濁法の導入実態. 月刊薬事 149No3 : 81-87、2007.

<図表の説明文>

表1 「簡易懸濁法」に関するアンケートの調査項目

表2 H18.1 と H19.6 のアンケート回答病院数の比較

表3 「簡易懸濁法」のメリットを教えてください

図1 H19.1 に簡易懸濁法研究会が発足したことを知っているか？

表4 「簡易懸濁法」を実施しない理由は何ですか

図2 簡易懸濁法の研修や、実技セミナーがあれば、参加したいと思いますか？

第 3 回簡易懸濁法研究会 総会のお知らせ

謹啓

時下ますますご清祥のことと、お慶び申し上げます。
この度、簡易懸濁法研究会会則に従いまして総会を開催いたします。
また、同会場にて引き続き講演会を開催致します。
研究会会員の皆様と顔を見てお話できるチャンスです。
奮ってご参加いただけますよう、よろしくお願いいたします。

謹白

記

日時：2009 年 10 月 23 日(金曜)

場所：長崎市市民生活プラザホール

□総会式次第

時間：午後 17：45～18：15

1. 事業報告
2. 決算報告・監査報告
3. 事業計画
4. 予算案
5. 協議事項

□第 3 回簡易懸濁法研究会講演会

時間：午後 18：30～20：30

会員報告：「在宅での簡易懸濁法（案）」

西村泰徳先生 泰栄メディカル（長崎）

特別講演：医師（未定） 「地域連携（案）」

簡易懸濁法研究会

※講演会終了後、午後 20：45 から懇親会を事前予約制で予定しています。

あわせてご参加お願い致します。

第3回簡易懸濁法講演会のご案内

謹啓

初秋の候、先生方におかれましては益々ご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて、下記の要領にて「簡易懸濁法研究会」学術講演会を開催させて頂くことになりました。

ご多忙中とは存じますが、是非ご出席賜りますようお願い申し上げます。

謹白

日 時 : 平成21年10月23日(金) 午後6時30分より

場 所 : メルカ築町・長崎市市民生活プラザホール(5階)

長崎市築町3-18 TEL 095-823-9333

プログラム

■会員企業報告 18:30~18:40

「当社における簡易懸濁法情報提供とその問題点」

大鵬薬品工業株式会社 ホームページ室 八束 弓様

■会員報告 18:40~19:10

座長 北陸大学 教授 宮本悦子先生

報告1 「処方薬の安全で適正な使用をめざした運用」

大洗海岸病院 薬剤部長 新井克明先生

報告2 「簡易懸濁法アンケート、5団体の集計結果」

益田赤十字病院 薬剤部長 西園憲郎先生

■会員発表 19:10~19:30

座長 北陸大学薬学部 教授 宮本 悦子 先生

『老健施設での簡易懸濁法導入事例と薬剤師の関わり』

泰栄メディカル 西村泰徳先生

■特別講演 19:30~20:30

座長 昭和大学薬学部 簡易懸濁法研究会代表 倉田なおみ 先生

『PEGがつなぐ地域連携～それを支える簡易懸濁法』

南薩ケアほすびたる消化器内科 伊東 徹先生

主催:簡易懸濁法研究会 後援:長崎県薬剤師会 長崎県病院薬剤師会

※本講演会は、日本研修センター生涯教育制度に認められており、研修シール1単位が交付されます。

平成20年度簡易懸濁法研究会会計報告

【収入の部】

(単位：円)

科 目	金 額	摘 要
会 費	1,259,000	正 会 員 641,000 (127 名)
		学生会員 18,000 (9 名)
		賛助会員 600,000 (9 社 12 口)
雑 収 入	0	
前期繰越金	729,958	
合 計	1,988,958	

【支出の部】

(単位：円)

科 目	金 額	摘 要
会 議 費	214,738	幹事会 110,000 (2 回分)
		総会費 104,738 (1 回分)
事 業 費	502,431	事務費 12,426
		通信費 35,175
		人件費(事務局) 135,000
		手数料 2,730
		HP 作成費 301,350
		慶弔費 15,750
次期繰越金	1,271,789	
合 計	1,988,958	

平成21年3月31日

上記収支報告書について監査した結果、適当と認めます。

平成 21 年 4 月 28 日

簡易懸濁法研究会

会計監事

世良 庄司 

簡易懸濁法研究会 会則

(総則・名称)

第1条 本会は簡易懸濁法研究会と称する。

英名は、The Japanese Association for Simple Suspension Method とする。

(目的)

第2条 本会は簡易懸濁法を中心に、広く摂食・嚥下障害患者における薬の安全で効果的な投与に関する研究及び普及を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 研究会の開催など、簡易懸濁法の研究・普及に関する事業
- (2) 医療・介護現場における問題点の抽出、研究機関（大学・企業など）との連携による研究
- (3) 医療・介護施設間の連携強化による簡易懸濁法実施施設の見学幹旋業務
- (4) 国内外関係学会との連携および国際交流
- (5) 機関誌その他刊行物の発行
- (6) その他、本会発展のために必要な事業

(構成・会員)

第4条 本会は本会の目的、事業に賛同し、所定の手続きを行った一般会員、学生会員、賛助会員をもって構成する。

2. 本会に入会を希望する者は申込用紙に必要事項を記入し、研究会事務局に届け出ものとする。以上の手続きを行い、役員の承認を得た上で会費を納入した者を会とする。

(役員)

第5条 本会に次の役員をおく。

代表幹事 1名
顧問 若干名
副代表幹事 2名
幹事 若干名
会計監事 1名

第6条 役員の職務

代表幹事は本会を統括し、幹事会ならびに総会では議長となる。

2. 幹事は幹事会を構成し、学術研究会をはじめとする本会事業の運営方針を立案しこれを推進する。なお、会の効率よい運営のため、学術事業担当、渉外広報担当、財務担当、総務担当の幹事若干名を置くこととする。
3. 顧問は本会の基本的な運営方針に意見を述べ、もしくは助言を行う。

第7条 役員の選出および任期

代表幹事は、幹事の互選により選出されるものとし、その任期は1年とするが再任は妨げない。

幹事は幹事会の推薦により選出されるものとし、その任期は1年とするが再任は妨げない。

第8条 幹事会

幹事会は必要に応じて開催するが、メーリングリストを用いてのインターネット会議も可能とする。

(会計・会費)

第9条 本会の経費は会費・寄付金・その他の収入をもってこれに充てる。本会の収支決算書は会計年度終了後に事務局が作成し、会計監事の監査を受けた上で、幹事会の承認を得て会員に報告しなければならない。

2. 会員は細則に定める年会費を納める。会費は主として本会の運営に充当されるものとする。なお、会費は幹事会で議決し、決定するものとする。また、顧問は名誉会員であるため会費を徴収しない。
3. 会計年度は毎年4月1日から3月31日までとする。

(事務局)

第10条 事務局は代表幹事のもとに、会員名簿の整理、会費の管理等研究会の運営に必要な諸事務をおこなう。研究会事務局の所在地等は細則に示す。

(会則の変更)

第11条 会則の変更は幹事会の議を経て、会員に報告するものとする。

2. 幹事会は2/3以上の幹事の出席（委任状を含む）をもって成立し、出席者（委任状を含む）の過半数で議決される。

付則

本会則は平成19年4月1日から施行する。

一部改訂 平成19年9月27日

細則

第1条 本会の運営に必要な事項は、この細則に定める。

第2条 細則の立案及び修正は、会則第 11 条により幹事会が行う。

第3条 会則第 9 条に定める年会費は次の通りとする。

1. 年会費は一般会員 5,000 円、学生会員 2,000 円、賛助会員一口 50,000 円とする。
2. 年会費を継続して 2 年間滞納した会員は、自動的に退会とする。

第4条 研究会事務局の所在地等

〒662-0886

兵庫県西宮市上ヶ原山田町 4-143-507

事務局責任者 樗木秀一

Email : k-kendaku@mbr.nifty.com

入会などのお問い合わせは上記 email にてお願いいたします。

簡易懸濁法研究会 役員

役員

- | | | |
|--------------|--|--------------------------|
| ① 代表幹事 | 昭和大学薬学部 | 倉田 なおみ |
| ② 副代表幹事 | 徳島文理大学薬学部
北陸大学薬学部 | 岡野 善郎
宮本 悦子 |
| ③ 財務(会計)担当幹事 | 吉備高原ルミエール病院薬剤科 | 安藤 哲信 |
| ④ 総務担当幹事 | 徳島文理大学薬学部
大洗海岸病院薬剤部
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 | 石田 志朗
新井 克明
座間味 義人 |
| ⑤ 渉外広報担当幹事 | 三条東病院薬局
知命堂病院薬剤科 | 岡村 正夫
武藤 浩司 |
| ⑥ 学術事業担当幹事 | 益田赤十字病院薬剤部
鳴門山上病院薬剤科
済生会松山病院薬局 | 西園 憲郎
賀勢 泰子
天野 学 |
| ⑦ 会計監事 | 株式会社システムヨシイ | 世良 庄司 |

事務局

樗木 秀一

簡易懸濁法研究会 平成 21 年度事業計画

1. 刊行物「簡易懸濁法Q & A集(応用編)」発刊(2009.10発行予定)
2. 雑誌「薬局」特集:「簡易懸濁法」(2009.7発行予定)
3. 第3回簡易懸濁法研究会総会・記念講演会開催
日時:2009. 10. 23、18:30～
場所:長崎市市民プラザホール
4. 第19回日本医療薬学会服薬支援関連シンポジウム企画計画
5. 簡易懸濁法に関するデータの添付文書掲載実現への活動
6. 講演活動(簡易懸濁法研究会共催講演会の実施)
7. 実技指導・研修会用プレゼンテーションスライドの作成
8. ハンドブック改訂版発行の援助
9. 保険薬局との連携強化(日本薬剤師会総会での発表)
10. 簡易懸濁補助器具「けんだくん」の発売。
11. 会員メーリングリストの充実。
12. メーリングリストでの未掲載薬品データの公開
13. ホームページの充実
14. 新知見の学会発表
15. 簡易懸濁法に関する学会情報の収集
16. 学会発表などをまとめた会員会報の作成
17. 他団体との共同事業

平成 2 1 年度簡易懸濁法研究会事業予算

【収入の部】

(単位：円)

科 目	金 額	摘 要
会 費	1,320,000	正 会 員(160 名) 800,000
		学生会員(10 名) 20,000
		賛助会員(10 社) 500,000
雑 収 入	0	
前期繰越金	1,271,789	
合 計	2,591,789	

【支出の部】

(単位：円)

科 目	金 額	摘 要
会 議 費	610,000	幹事会(3 回) 330,000
		総会費(1 回) 280,000
事 業 費	1,981,789	事務費 30,000
		通信費 60,000
		人件費(事務局) 240,000
		出張費 90,000
		H P 改修費 200,000
		予備費 1,361,789
合 計	2,591,789	